



すぎ うら とし ひこ
杉浦 俊彦 (59歳)

現職
農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門果樹生産研究領域
果樹スマート生産グループ
グループ長補佐

気候変動に対応する農業生産技術の振興

業 績

気候変動は農業に甚大な影響を及ぼす。しかし、2000年代初期では、生産者や研究者から遠い未来の問題と捉えられ、対策研究はほとんど行われていなかった。

本活動は、日本の農業において、気候変動の影響が2000年頃から顕在化していることを、全国での実態調査や、果実品質に関する栽培記録の統計解析等を通じて、初めて明らかにした。また、将来の気候変動シナリオを用いて、果樹の栽培適地が移動し、生産継続が困難になる産地があることを示した。これらにより、品種や品目変更など対策の必要性を明確にし、対策技術の確立にも尽力した。

本活動により、品質低下など温暖化の影響を低減する技術や品種の開発が精力的に進められたことに加え、生産者の意識改革により、生産現場での対策も実践されつつある。将来予測は、行政面において気候変動適応計画策定等に活用され、また、多くの報道を通じ、国民の気候変動に対する理解の深度化に寄与している。

本成果は、亜熱帯果樹生産など、気候変動を活用した新たな産業創出や、気候変動の影響をわかりやすく示すことによる環境教育に寄与することが期待される。

主要論文：「年平均気温の変動から推定したリンゴおよびウンシュウミカンの栽培環境に対する地球温暖化の影響」園芸学会雑誌、vol. 73、p 72～78、2004年発表

「Changes in the taste and textural attributes of apples in response to climate change」Scientific Reports、vol.3、p2418、2013年発表